

受賞者〈横浜冷凍株式会社〉

〈環境に優しい最先端の技術を集約した冷蔵倉庫〉

施設屋上には、業界最大規模となる630kwの太陽光発電システムを設置し、営業冷蔵倉庫初（FIT施行後）となる売電も実施。また、冷凍設備の冷媒に自然冷媒（アンモニア/CO2）を使用、電力消費の抑制と高度な品質管理を可能にするハイブリッドデシカント陽圧式低温プラットホーム、電力使用を最適にコントロールするBEMS（Building Energy Management System）など、最先端の技術を集約した環境に優しい物流センターである。

1. 当社の環境への取り組み

当社は食品を扱う企業として、環境問題対策を重要なテーマとして取り組み、業界においてもいち早く対応してきました。

従来、冷蔵倉庫では冷媒にフロンガスが広く使われてきました。しかしフロンガスはオゾン層を破壊し、自然環境に悪影響を及ぼすことから、当社では2001年以降新設した冷蔵倉庫には、自然冷媒であるアンモニアを使用しています。近年ではアンモニア+CO2の二元冷媒を使用した省エネ設備を導入しており、2016年7月の時点で当社全体の自然冷媒導入率は52.5%まで進捗しています。

屋上太陽光発電システムにも力を入れており、2006年に設置したのを皮切りに、現在では国内に9か所、海外はタイ王国に2か所に設置しています。その他、構造的に太陽光パネルの設置が不可能な既設の冷蔵倉庫には屋上緑化を施しています。

今後もお客様の信頼に応えるべく、環境に留意しながら、日々の業務に邁進します。



2. 夢洲物流センターの取り組み

2014年7月に竣工稼働した夢洲物流センターは、「高い品質管理」、「環境にやさしい冷蔵倉庫」、「最適な保管環境の提供」という3つのコンセプトに基づき設計・建設されており、冷凍・冷蔵技術の粋を集めた冷蔵倉庫です。



①屋上太陽光発電システム

屋上には業界最大規模となる630kWの太陽光発電システムを設置し、FIT（全量買取制度）施行後では業界初となる売電も行っています。2014年10月～2015年9月の夢洲物流センター年間発電量は、約74万kWhとなり、CO2削減量は年間388tに達しました。



②高効率自然冷媒冷凍機

オゾン層破壊、地球温暖化の原因であるフロン
の代わりに、環境に優しい自然冷媒（アンモニア
/CO2）を使用した、高い安全性を備えた冷凍機で
す。



③ハイブリッドデシカント陽圧システム

プラットホーム（荷捌き場）内を陽圧化して、
塵や外気の侵入を防ぎます。また冷却器の排熱を
利用して除湿を行うハイブリッド方式になってお
り、エネルギーを無駄なく使用する構造となっ
ています。



④BEMS (Building Energy Management System)

冷凍機をはじめ、物流センターの主要機器は電
気で稼働します。本システムで消費電力の「見え
る化」「最適化」を図り、電力使用量の抑制を図
るだけでなく、社員の省エネ意識の向上が期待で
きます。

3. 取り組みの成果

同規模施設に比べ、エネルギー使用量平均約
38%削減を実現し、電気消費量の削減、CO2排出
量の削減に繋がっています。



横浜冷凍株式会社
代表取締役社長 西山敏彦

〒220-0012
横浜市西区みなとみらい四丁目6番2号
みなとみらいグランドセントラルタワー7階
電話 045-210-0011
URL <http://www.yokorei.co.jp/>

環境活動の理念

当社は物流事業を通じて社会に
貢献するという企業理念の下、地
球環境に配慮した事業運営を行
い社会から一層信頼される企業
を目指します。